

第39号

(2021年1月10日発行)

発行:中央大学学会 出版白門会
CONTENTS

(お名前は敬称略)

▽第21回総会中止、書面表決 新年会のお知らせ	1
▽中央大学への提言 …北村信治	2
▽白門同窓生の本	3
▽エッセイ「国後を見た!」 …一戸裕子	3
▽Zoomの使い方	4
▽告知板	4
▽編集後記	4

出版白門会の関連行事予定

- ①会報発行 1月10日
 - ②2021年 新年会
1月22日(金) 19時~
Zoomにて行います。
第1部 新春講演会 藤井輝明氏
第2部 Zoom 懇親会
※詳細は会員グループメールにてご案内いたします。
 - ③街歩き企画 5月ごろ
※詳細が決まり次第、HPと会員メールにてご案内いたします。
 - ④第21回 出版白門会総会
7月中旬
会場:出版クラブ(神保町) 4階
会費:6,000円
※後日、欠欠確認を兼ねたご案内を送りいたします。
 - ⑤ホームカミングデー
秋 多摩キャンパス
※詳細はHPでわかり次第ご案内いたします。
- 行事に関するお問い合わせは、下記メールでご連絡ください。
E-mail:pub.hakumon@gmail.com
なお、上記行事のほか、皆さまの事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。



● 出版界に出版白門の知恵と情熱を! ●

●基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

「第21回定期総会」は中止、書面表決に

7月17日に予定していた「第21回定期総会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催の中止を決断致しました。それに伴い、総会で審議予定の4つの議案について、書面表決という形に変更し、実施いたしました。書面表決結果は、4議案すべてで賛成57、反対0となり、過半数の賛成をもって

可決されました。

事務局の対応遅れもあり、議案書等の送付が総会予定日を過ぎてしまった点について、お詫びするとともに、総会の中止、書面表決への変更につき、ご理解をいただきましたこと、御礼申し上げます。

2021年新年会のお知らせ

コロナ禍の影響で「一堂に会しての新年会」の開催は見送りとさせていただきます。

その代わり、新しい方式、すなわち、「Zoomを活用した新年会」を開催いたします。

コロナ禍の中で「テレワーク」「遠隔授業」そして「Zoom飲み会」といった言葉がこの1年で生まれました。出版白門会でも毎月開催している「幹事会」も「Zoom」を活用して会の運営と会員の皆様に向けての新しい形でのイベントの在り方などを議論して参りました。

この度、「2021年新年会」をZoomで開催する運びとなりました。既にお仕事などでZoomを活用されている方はもちろん、これからZoomを始める方もぜひこの機会を使って「withコロナ」とともにある出版白門会として、出版界に明るい風を吹かせましょう!

Zoomの使い方などは4頁に纏めました。紙面の関係で見つらい可能性もありますので、大きな画面

で確認される場合には、「出版白門会ホームページ」にアクセスいただき、ご確認をお願いいたします。

★日時

2021年1月22日(金) 19時~21時

★内容

第1部「新春講演会」講師:藤井輝明氏(昭和57年経済学部卒・岐阜聖徳学園大学看護学部特任教授)

第2部「懇親会」(会員各位、ご自宅などで飲み物等をご用意いただき、Zoomを使って懇親します。)

★ミーティングIDに関してご不明な点がございましたら、会の代表アドレス pub.hakumon@gmail.com までご連絡下さい

決算報告・新年度予算

中央大学学会 出版白門会 令和1年度決算報告

自平成31年4月1日 至 令和2年3月31日

収入の部		(単位:円)	
科目	決算額	摘要	
前年度繰越金	913,500	前年度からの繰越金	
会費収入	395,000	年会費5,000円×77人、年会費法人会員10,000円×1法人	
各種会費収入	572,000	総会会費、新年会費、学会会費、大学祝金など	
(内訳) 総会会費	302,000	6,000円×36人、2次会費、学会会費、大学祝金	
新年会会費	270,000	6,000円×37人、2次会費	
その他	0		
学会補助金	115,000	支部活動支援費(100,000円)、新年会講師補助費(15,000円)	
寄付	9,606	幹事寄付	
雑収入	10	会計口座利子	
総計	2,005,116		

支出の部		(単位:円)	
科目	決算額	摘要	
事業費	966,543	総会関連費用、理事会関連費用、新年会関連費用、会報製作費など	
(内訳) 総会費	340,859	令和1年7月19日	
理事会費	16,200	令和1年7月19日	
新年会費	376,191	令和2年1月24日	
幹事会費	3,000		
会報製作費	229,993	会報36号、37号製作費、発送料など	
その他事業費	300	能産賞関連費用	
事務費・雑費	9,603	振込手数料など	
慶弔費	2,200		
交際費	0		
繰越金	1,026,770	次年度への繰越金	
総計	2,005,116		

中央大学学会 出版白門会 会計
監 査 員
藤原 隆徳
中央大学学会 出版白門会 会計監査
土 屋 隆一

中央大学学会 出版白門会 令和2年度予算

自令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

収入の部		(単位:円)	
科目	予算額	摘要	
繰越金	1,026,770	前年度からの繰越金	
会費	388,000	入会金1,000円×3人、年会費5,000円×75人、法人会員10,000円×1法人	
各種会費	340,000	総会会費、新年会会費、その他事業参加費他	
(内訳) 総会会費	0		
新年会会費	290,000	6,000円×40人、2次会費など	
その他会費	50,000	その他事業会費	
学会補助金	115,000	支部活動支援費100,000円、講師料補助15,000円	
寄付金	10,000	幹事寄付など	
雑収	10	会計口座利子など	
合計	1,879,780		

支出の部		(単位:円)	
科目	予算額	摘要	
事業費	555,000	会報製作費、総会費、その他事業活動費	
(内訳) 総会費	15,000		
理事会費	0		
新年会費	380,000		
幹事会費	5,000		
会報製作費	75,000	年2回(4月、10月)発行予定	
その他事業費	80,000	講演会費、事業費、名簿作成費、読書推進活動費など	
事務費・雑費	15,000	事務用品、交通費、振込手数料等	
慶弔費	20,000		
交際費	30,000	学会出席祝儀など	
繰越金	1,259,780	次年度以降に繰り越すべき会費等	
合計	1,879,780		

中央大学学会 出版白門会 会計

出版白門会ホームページアドレス <http://pub-hakumon.jimdo.com/>

facebook 出版白門会サイトへのアクセスは検索サイトの「出版白門会(中央大学学会職域支部)」から…

- 一、序論
- 二、法と医の出会い
- 三、母校の現状と他校の考察
- 四、学部将来構想
- 五、結語（※2020年に一部加筆修正）

一、我が母校、中央大学の社会的に見た現状と今後について検討してみたい。

早慶上智大学の次なるランクの中にMARCHが存在し、その一角を担っているのが我が中央大学である。私が大学を志望したときから既にこのランクは周知の事実である。当時の私は司法界の一翼を担っているのは私学では中央大学法学部であり、その環境の下で勉強し出来ることならば、将来、司法界で仕事をする…そんな思いを抱いていた。学生時代に関心を受けた学問が刑事法と法医学。この法医学の関心から現在の仕事への接点が生まれたことは否めない。かつて学んでいた学問が法律であり、学部生として学んでいた法医学という学問がかかわりとなって現在の会社である医療系の出版社に入社したのもこれも何かの縁かと思う。

二、人が社会に存在し生活をしていけば人と人との間での契約が生まれそれをルール化したものが所謂民法である。また人が安寧な社会生活を送る反面、社会の安寧秩序を乱す者に対して社会的な制裁を科すためのルールが刑法である。民法をもとに市場経済が活性化し商業行為が行われる。このように人の生きていくところには法律をはじめとした社会科学が存在している。社会科学はどちらかと言えば全体の中における個人を捉える学問と思われる。

一方、私が現在かかわっている医療業界で接する医学はどちらかというと個人の内面におけるリスクと戦う学問であると感じる。人が安寧に生活し個体の免疫力が高められまたは維持されてストレスもなく過ごしていれば正常に生きていくことが出来る。しかし、一度このバランスが崩れることにより病気（異常）になる。この異常を診断し改善するために服薬治療や手術による治療を行う学問が医学である。人が生きる中での社会科学的なトラブルに関しての代弁であり救済を行うのが弁護士であり、また、個人の個体内のトラブルを改善へと導くのが医師であると考えられる。この様なことから、トラブルという言葉が介せば社会科学の法律学と生命科学の医学は人にとって近接する学問であると捉えることが出来る。

人の個体内のトラブルを改善する医師も実は多くの法律により守られまた規制もされている。人体にメスにより傷をつけ手術という行為を行うことは客観的に見れば刑法の傷害罪に該当するが人を救う行為が罰せられた話は聞かない。これは、医療行為には違法性が無いとされているからである。また実際の医療行為を行う医師も臓器移植法・母体保護法・精神保健福祉法といった法律により制限や規制がかけられている。よって医と法は決して遠い存在ではなくむしろ近く、寄り添っている学問同士であるといっても過言ではない。この様な点に関し大学を卒業し現在の仕事の中でつぶさに感じている毎日である。

三、現在、母校が直面している様々な要因から大学受験生の人気に陰りが出てきていると感じられる。キャンパスを駿河台から八王子に移転させたことが昨今では受験生の人気を落としているとされている。しかし、移転当時の社会の情勢からすれば何ら否定的なことはないと思う。自分自身に置き換えれば、東京都内出身で何も大学が山手線内にある学校を積極的に選びたくなかった。山手線内という表現が正しいかはわからないが、都心の大学＝キャンパスが狭い＝建物は高層で無機質な空間で構成されている、と感じていた。校歌の「草のみどりに風薫る丘に目映き白門を…」は駿河台時代の諸先輩方には申し訳ないが八王子キャンパスのイメージになっている。この校歌のイメージに合致している現在のキャンパスを有効活用することが望まれる。確かに、駿河台時代の近隣大学で現在のMARCHの一翼を担う明治大学は基本的なスタンスとして教養課程を杉並区のと泉キャンパスで、専門課程を駿河台キャンパスという形で構成されている。母校は、教養部制を採用していないために単純な比較はできないが通学する学生の交通の利便性などから受験生にとっての選択優位性があるのは否めない。この優位性を更に担保する明治大学の戦略は「社会人教育」にも現れている。学部卒業後のMBAコース以外の社会人教育、すなわち、母校でいうところの「クレセントアカデミー」の講座の充実ぶりは目を見張るほど素晴らしいものである。避けられない少子化問題に対して明治大学は大学受験生対策以外に働き盛りの40歳前後の社会人の受け入れを積極的に行っている。都心に立地することの優位性に更に付加価値をつけている感じがする。この点を単に母校が真似をすることで解決できるものと思えない。立地条件が似ている駿河台記念館での「クレセントアカデミー」の講座数を明治大学並みに揃えたとしてもおそく社会的に見た場合には「中央大学はMARCHで生き残るために明治大学の戦略を真似ている」と言われかねない。明治大学の戦略を真似することではなく130年の伝

統を基に新しい考え方をそして2018年以降の18歳人口減少を念頭に母校らしい戦略が必要であると考える。参考になる大学の改革例があるので考察してみたい。

①慶應義塾大学

伝統的な総合大学である。人文科学系の学部、社会科学系の学部のほかに科学系の学部すなわち医学部を擁している。ここ20年の間に医学の近接学問である看護学に関しては従来の看護短期大学を四大化し看護医療学部を設置した。さらに医学の近接学問である薬学に関してはある種のM&Aを使いつつての共立薬科大学を吸収合併し薬学部を構築した。この合併の背景には薬学教育の変革があり四年制の教育が廃止され六年制教育に移行し単科薬科大学の経営の困難さと慶應義塾大学の将来構想との間で双方合意が得られたことにあるとされている。なお、2020年12月の報道で「東京歯科大学」との合併を念頭にした協議を開始と発表されている。

②上智大学

都心にキャンパスを擁し人気実力ともにあるこちらの大学もここ10年の間に単科大学で経営危機に瀕していた聖母大学看護学部を買収している。理工学部を擁しているはいるが全体として社会学系の色が強い大学も医療系の学部を設置したことにより名実ともに不動の人気を得ている。

③法政大学

母校に似たキャンパス構成である。都心からのアクセスが悪い町田キャンパスを改組してスポーツ健康学部を近年設置した。医療系の学部とは言いがたいが、人間が生きていくために健康をどのように維持していくべきかを学ぶことからすれば、準医療系学部と言っても過言ではない。また、大学の宣伝効果抜群のスポーツに関して学部の垣根を越えて一つの学部として選手の育成に力を注ぐことができています。結果に関しては周知の通りである。

四、前掲の大学以外にも考察する大学はあるが、概ね総合的に分析すると「ここ20年の間で医療系の学部を設置した大学が多い」と言える。少子高齢化の世の中では高齢者に関しての医療ケアに従事する所謂コ・メディカル（医療従事者）スタッフの絶対的の量が不足すると考えられている。そこを見込んだ多くの大学の動きは決して間違っていないと思われる。母校の将来構想に関しては、この社会のトレンドを意識した改革が必要であると考える。既存の学部の拡充として理工学部に新しい学科を設置できればと考える。機械工学と医学の融合の学問である「医用工学」に関しての学科が考えられる。機械工学の考え方を医学に生かす、すなわち医療機器（総称してME機器という。MRIやCTなど）の開発やME機器を院内で専門的に取扱う医療従事者である「臨床工学技士」の養成も付带的に可能になると考える。

新学部を設置する構想であればこれは間違いなく「保健医療学部」であると考える。学部増設に関しては認可が必要になるが純粋に新学部を設置しても良いし、大学全体で不人気学部学科の定員減と新学部定員を入れ替えても良いと考える。この新学部の学科にはまず「看護学科」の設置をお勧めしたい。高齢社会にまず必要な医療従事者は看護師である。ジェンダーな問題点もあることは周知であるが「看護師不足」という現状は変わりそうにもない。看護師養成に関しては従来、専門学校教育で形成されていたが近年では学問の重要性を鑑み大学教育が主流となっている。母校が「看護師養成」とは将来構想として間違っていると諸先輩からお叱りを受けることを覚悟で言わせていただくが、画一的な看護師養成では大学の個性が出ないとの指摘に関しては130年の伝統の学問である「法律」に重きを置いた看護師養成も母校ならではの個性が光ると考える。リーガルマインドを持った看護師養成教育という視点は日本全国でいまだかつてない発想である。複雑化した社会では「医療過誤・看護過誤」という問題や病院内での看護部という組織を管理運営していくためにはどうしても法律の知識が必要になると思われる。そこに法律学教育の伝統校の一翼を担う母校ならではの個性を十分生かせると考える。

また、M&Aという手法をとるのであれば、単科薬科大学の買収も可能かもしれない。薬学教育が六年制になり経営が逼迫している大学が存在するのも事実である。

五、「都心回帰」が母校の最優先事項という考えが幾多耳に入ってくることは事実ではあるが、私は何もそれが第一優先事項とは考えていない。都心にキャンパスがあるに越したことはないが、現実として都心に八王子キャンパス相当のキャンパスを設置できる場所を確保することは容易ではないと考える。まずは、八王子キャンパス内に総合政策学部次ぐ新学部設置の検討が現実的である。仮に校舎を建設するとしても現在の校地内で実現が可能だからである。



「實地應用ノ素ヲ養フ」という母校の理念は「実学」を学ぶことにあるとすれば、医療従事者の養成もまた医療における「実学」教育と捉えることもできると考える。

なお、この提言をした後に「中央大学中期計画」が発表され、法学部の都心回帰が決定された。これにより、法曹界OBとのコネクションがし易くなること、近隣他大学(東京大学・早稲田大学・慶應義塾大学など肩を並べる大学)との良い刺激がもたらす影響は計り知れない。しかし、「法学部」のみの都心回帰では中途半端感は否めない。私自身、2014年度の商学部総合講座「働く入門」の講師を拝命し講義を行ったが、特にこの講座のようにOBをはじめとした「現役社会人講師」による授業の場合、アクセスが最も課題が残る点である。コロナ禍での遠

隔授業で發揮した「Zoom」を活用すれば「時間やアクセス」に気兼ねすることなく講義はできるのかもしれないが、大教室とはいえ、対面授業は授業をする側も聴く側もリアルな時間を共有できる点は遠隔授業にない醍醐味と感じる。そのためにも、OBのアクセスし易さも大学運営で重要なポイントとなるので、全学部都心回帰あるいは低学年は多摩キャンパス・高学年は都心キャンパスと柔軟に考えることも必要になるだろう。

以上

※本提言は中央大学学員会が大学創立130周年時の企画として提出したものに2020年度に一部加筆修正したものです。

会員の近刊書籍紹介 (著者名はアイウエオ順)

*講演会・会報掲載にご協力をいただいた方を含みます

*20年12月末現在の本年発行書籍です。

漏れがありましたらご容赦ください。

逢坂 剛

■鏡影劇場／新潮社／2020/9/18

門田隆将

■疫病2020／産経新聞出版／2020/6/30

北方謙三

■チンギス紀(九)日輪(八)杳冥／集英社／2020/11/26

木内 昇

■球道恋々(新潮文庫)／新潮社／2020/6/19

鳴神響一

■脳科学捜査官 真田夏希 パッションイト・オレンジ(角川文庫)／KADOKAWA／2020/7/16
■刑事特捜隊「お客様」相談係 伊達政鷹(小学館文庫)／小学館／2020/11/06

濱 嘉之

■警視庁公安部・片野坂彰 動脈爆破(文春文庫)／文藝春秋／2020/3/10
■院内刑事 ザ・パンデミック(講談社文庫)／2020/11/13

山本幸久

■あたしの拳が吼えるんだ／中央公論新社／2020/2/18
■神様には負けられない／新潮社／2020/12/16

国後島を見た！

一戸裕子

一昨年の夏に私はサハリン(樺太)を訪ねた。そこには日本の戦争遺物といえる巨大な廃墟が残っていた。骨ばかりの巨体となった王子製紙工場である。また、西海岸の真岡町では、悲しい話を聞いた。八月十五日の終戦を過ぎた八月二十日に、ソ連軍が参戦してきた。若い郵便局員の女性たちは、大切な職場を守るためにそこに留まり、ソ連軍の襲撃を受けて自ら命を絶ったという。北のひめゆり事件とも呼ばれる悲しい歴史である。

その印象が強く、私は北方四島とはサハリンの近く、というよりもロシアの近くだと思っていた。だからソ連軍が占領したのだ、と。

今年の八月、コロナ渦中ではあったけれど、私は北海道を訪ねた。そして自分の不勉強を知った。北海道の東、中標津空港に



着陸し、そこから知床に向かうバスの中で、遠くに島を見た。その島はどンドン大きくなり、羅臼町の海岸に降り立つと、島はすぐ目の前に長々と横たわっていた。

手を伸ばせば届きそうなその島が、なんと北方四島の国後島だというのだ。

私は心底驚いた。ここは北海道の東でロシアから遠い。反対側である。こんなに遠いところがロシア領だという。しかも羅臼海岸の目の前である。距離にして二十六キロ。その海の真ん中、わずか十キロほどの所に国境線があるのだという。

驚きである。知らなかった。北方四島ははるかに遠い島だと思っていた。

海岸近くで魚や昆布の店を出す女性から買い物をし、話しかけた。

「あれが国後島だなんてずいぶん近いですね。驚きました」

「そうなんです。本土の人はみんな驚きます。みなさんに見てもらいたいです。見ないとわからない。来てほしいです。悔しいですよ」

そう、悔しい。私も悔しくなった。すぐその海に国境があって自由に漁ができないなんて、漁師はどんなに大変だろう。かつて国後島に住んでいた人もいただろうし、先祖のお墓のある人もいるという。

北方四島を返せ、という言葉は政治的な発言だと思ってこれまで敬遠してきたけれど、住んでいる人にとってはそうではない。自分の問題である。

羅臼の海岸で、私は自身の不勉強をつくづく思い知った。そして、思った。日本は戦争に負けたのだ、と。終戦記念日などと耳障りの良い言葉でごまかしてはいけぬ。八月十五日は敗戦の日である。負けたから日本の領土を削り取られたのだ。

北海道の旅をして、私はそのことを発見した。多くの人にとって自明のことを、い



まさらのように発見したのだけれど、もう一つの発見はアイヌ文化である。

阿寒湖には北海道の先住民であるアイヌ人の住む小集落、アイヌコタンがある。

夜に訪ねると、かがり火に照らされたアーチ型の門から、巨大なフクロウの彫り物が見下ろしていた。神(カムイ)であるフクロウは夜通し村を守っているのだという。そして熊もまた、神である。

アイヌの人々の伝統を知りたいと思い、古式舞踏を見た。民族衣装を着た少女たちが、鳥になって舞ったり、神に捧げる狩りの舞をした。決してうまいとは言えない踊りだけれど、その素朴さに私は共感した。

自然とともに生きるのがアイヌ人であるという。でもそういう民族は、アメリカインディアンもそうである様に、やがて少数民族となってしまう。

東北生まれの私の中にも、アイヌの血が少し流れていると私は思っている。かつて蝦夷地と呼ばれ、「白川以北一山百文」ともいわれた東北である。そこに生まれた私は、土着というものが大好きだ。弱いもの、滅びゆくものに、強く心が惹きつけられる。

この夏の終わり、国後島とアイヌコタンが、私の胸をいっぱいになっている。

Zoom の使い方

PC・スマホそれぞれのログイン方法などを纏めました。
ご案内内容が小さく見難いので、宜しければ「出版白門会ホームページ」
→「2021年新年会のお知らせ」にてご確認をお願いいたします。

<よくある質問>

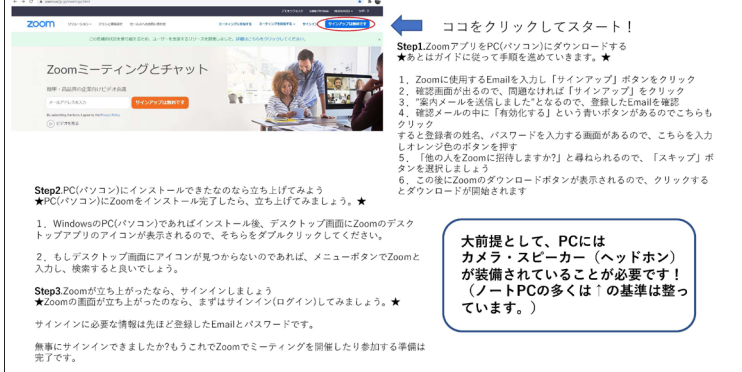
Q1 どのPCでも使えますか？

A1 基本的にはどのPCでも使えますが、「カメラ」「スピーカー（ヘッドホン）」が必要です。ノート型PCには「カメラ」「スピーカー（ヘッドホンジャック）」が概ね装備されていますが、デスクトップ型PCにはカメラは内蔵されておらず「外付けカメラ」が必要です。「ヘッドフォンジャック」は付いていますので、お手元のヘッドホンを接続下さい。

Q2 スマートフォンであればどれでも大丈夫ですか？

A2 iPhone や Android であれば使えますが、「らくらくフォン」「シンプルスマホ」といった一部の機種はご利用になれません。また、「ガラケー」では使えません。

【Zoomの使い方 (PC)】



ココをクリックしてスタート！

Step1.ZoomアプリをPC(パソコン)にダウンロードする
★あとはガイドに従って手順を進めていきます。★

- Zoomに使用するEmailを入力し「サインアップ」ボタンをクリック
- 確認画面が出るので、間違えなければ「サインアップ」をクリック
- 案内メールを送信しましたになるので、登録したEmailを確認
- 確認メールの中に「有効化する」という青いボタンがあるのでこちらをクリック
- 他の人をZoomに招待しますか?と尋ねられるので、「スキップ」ボタンを選択しましょう
- この後にZoomのダウンロードボタンが表示されるので、クリックするとダウンロードが開始されます

Step2.PC(パソコン)にインストールできたのなら立ち上げてみよう
★PC(パソコン)にZoomをインストールしたら、立ち上げてみましょう。★

- WindowsのPC(パソコン)であればインストール後、デスクトップ画面にZoomのデスクトップアプリのアイコンが表示されるので、そちらをダブルクリックしてください。
- もしデスクトップ画面にアイコンが見つからないのであれば、メニューボタンでZoomと入力し、検索すると良いでしょう。

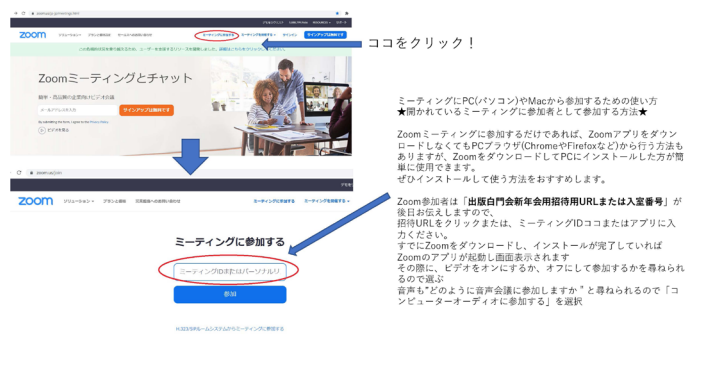
Step3.Zoomが立ち上がったのなら、サインインしましょう
★Zoomの画面が立ち上がったのなら、まずはサインイン(ログイン)してみましょう。★

サインインに必要な情報は先ほど登録したEmailとパスワードです。

無事にサインインできましたか?もうこれでZoomでミーティングを開催したり参加する準備は完了です。

大前提として、PCにはカメラ・スピーカー（ヘッドホン）が装備されていることが必要です！（ノートPCの多くは「の」基準は整っています。）

【Zoomアプリをダウンロードしないで参加する場合 (PC)】



ココをクリック！

ミーティングに参加する

ミーティングに参加する
（ミーティングIDまたはパーソナルリンク）

ミーティングに参加するだけであれば、ZoomアプリをダウンロードしなくてもPCブラウザ(ChromeやFirefoxなど)から行う方法もありますが、ZoomをダウンロードしてPCにインストールした方が簡単に使用できます。
ぜひインストールして使う方法をおすすめします。

Zoom参加者は「出版白門会新年会雇用招待URLまたは入室番号」が後日お伝えしますので、招待URLをクリックまたは、ミーティングIDコまたはアプリに入力ください。
すでにZoomをダウンロードし、インストールが完了すればZoomのアプリが自動的に画面表示されます。
その際に、「ビデオをオンにするか、オフにして参加するかを尋ねられるので選ぶ
音声などのように音声会議に参加しますか」と尋ねられるので「コンピューターオーディオに参加する」を選択

【Zoomの使い方 (スマホ)】

★スマホはiPhoneまたはAndroidになり、「らくらくフォン」等は使えません！★



iPhoneでは、AppStore
Androidでは、Google
Playにて
アプリをダウンロード
(無料)
【ZOOM Cloud
Meetings】です！

スマホにアプリがダウンロードされます。

「参加」をタップ

- ココにミーティングIDを入力
- ココにお名前を入力

告知板

■ with コロナとともに

「通常総会」「街歩き企画」「箱根駅伝予選会応援」…といった各種イベントがことごとく中止となりました。これは、「出版白門会」だからということではなく、「安心・安全なイベント運営」が全国的に行いにくい状況にあることにあります。我々、出版白門会でも「with コロナ」の社会の中でどのような会の運営が望ましいか、月1回の幹事会の中で議論を交わしております。会員の皆様におかれましても「何か良いアイデア」をお持ちの方がいらっしゃいましたら、屈託ないご意見をいただければ幸いです。

■ ① 出版白門会ホームページのご案内

アドレスは <http://pub-hakumon.jimdo.com/> です。Google や Yahoo といった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。

■ ② 出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail: pub.hakumon@gmail.com です。

■ 会費未納の皆様へ（年会費金額¥5,000）

① 同封の振込用紙にて、もしくは下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号 00180-8-600659

加入者名 中央大学学員会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口や ATM でも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト（パソコン、携帯、スマホなど）もご利用いただけます。

② 他行（銀行など）からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行 当座預金

店名(店舗) 〇一丸(ゼロイチキウ)

口座番号 0600659

口座名義 チュウオウダイガクガクインカイシュツパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記

コロナ禍の影響で会のイベントや学員交歓など開催できずの1年間で「記事」の原稿の発行時期である10月1日の期日が大幅に遅れましたこと、この場を借りて先ず、お詫言申し上げます。申し訳ありませんでした。

思いのほか「コロナ禍」が終息せず、「Afterコロナ」ではなく「withコロナ」な世界になってきました。歴史を振り返れば100年前にも世界的に「疫病」が流行ったようです。今年はその100年周期の年になったのかもしれませんが。しかし、100年前との違いは「通信技術」の進歩だと感じます。人が離れていても画面を介して授業や会議やイベントを行える社会になっていることです。画面を介することには多少の違和感がありますが、違和感を覆す「その場の雰囲気共有」が連帯感を生みだすと思えます。

という私もこの1年は「Zoomを使った商談」を仕事では体験しました。緊急事態宣言以降は宿泊を伴った出張ができない1年となり、「withコロナ」を体験中です。(北村)